



本学の熊本地震被災地への支援活動について



8月28日 熊本駅にて

当初から支援活動を積極的に展開してきました。

六月には、附属防災教育未来づくり総合研究センターの小田隆史特任准教授を現地に派遣し、教育復興支援センターが仙台市小学校長会・中学校長会と協働で刊行した『明日の子どもたちのために―教育復興実践事例集―』や『先生たちの明日を支える情報誌 ちよっとたいむ』などを熊本大学、熊本県教育庁、熊本市教育委員会などの教育機関に提供しました。また、

宮城教育大学は、熊本地震発生直後の四月十八日に「平成二十八年熊本地震復興支援本部」を設置し、見上一幸学長による緊急メッセージ「被災した子どもへの学び支援―東北からの恩返し―」を发出するなど、発災

益城町教育委員会からも同様の資料提供の要請があり、寄贈しました。

その後、熊本県教育委員会・熊本市教育委員会からの要請などに基づき、八月二十八日から九月三日にかけて、学習支援ボランティア学生十名を上益城郡御船町及び熊本市東区の学校に派遣しました。現地を訪れた学生の多くは、東北の被災地における多様なボランティアに従事した経験があり、こうした経験をいかしつつ、東日本大震災の際に得た様々な支援に対する恩返しの想いを抱きながら、学習支援・教員補助のボランティア活動を行いました。また滞在中、熊本大学復興ボランティア活動支援プロジェクトの学生とも交流し、震災直後から学生有志が本学キャンパスにおいて募金した義援金（八七、六六九円）もお渡しいたしました。

参加した学生からは「明るく振舞っている子の中にも様々な事情がある子もいて、まだまだ心のケアが必要と感じた」「自分自身がかえりたい経験をすることができた。この想いをこれからの人生でいかしていきたい」「少しでも熊本



8月29日 御船町立御船小学校にて



8月30日 熊本大学復興ボランティア活動支援プロジェクトの皆さんと

被災地の教員養成課程に学び、将来教師を志す学生にとつて、貴重なサービスマーケティングの機会となったことがうかがえます。

その後、宮城県を襲った台風被害を心配した御船町立御船小学校の児童から、お見舞いのメッセージが届くなど被災地間の心の交流が続いています。

宮城教育大学は、今後も東日本大震災や熊本地震の被災地の教育復興に向け、ニーズに応じた支援を継続していきます。



御船町立御船小学校から届いた台風お見舞いメッセージ